



報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

留学ジャーナル『留学白書2016』を発表**～高校生以下の留学検討者が5年で約2倍の増加。留学スタイル多様化で費用も選択の幅が拡大～**

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル（本社：東京都新宿区信濃町 34 JR 信濃町ビル、代表取締役社長：安藝 清、以下「留学ジャーナル」）ではこの度、日本人留学生および留学希望者の動向をさまざまな視点から調査・分析する『留学白書 2016』を取りまとめましたので、ここに調査結果の要旨をご報告いたします。

主な調査結果の概要は下記の通りです。

＝調査結果トピックス＝**【「留学ジャーナル利用者にみる傾向」データより抜粋】****■高校生以下の留学検討者が5年連続で増加。この5年間でほぼ2倍近い伸びに。**

2015年に当社カウンセリングセンターを訪れた高校生以下の留学検討者は、前年比約1割増加し、この5年間でほぼ2倍近い伸びとなっています。特に高校生の留学相談は各学年において前年に比べ約15%増という結果となりました。また、1学期～1年間の単位認定留学の希望者が増えたことや、留学後の進路を見据えた学校選びの相談が多かったことも特徴的でした。

■2015年の人気留学先トップはカナダ。海外情勢の不安を避けたオセアニア留学も人気上昇。

2015年に留学ジャーナルを利用した留学先は、前年に変わらずカナダがトップとなりました。大学進学層にはアメリカが圧倒的な人気があるものの、昨今の海外情勢の不安を避けたオセアニア留学の人気も上昇しています。

【「留学意識調査アンケート結果にみる傾向」データより抜粋】**■留学スタイルの多様化で、費用も選択の幅が拡大。費用は「家族が負担」との回答が4割**

今回の調査では、1週間にかける留学費用を20万円～30万円未満と回答する人が31%、30万円～40万円未満とした人も30%と、中間的な金額も多く選ばれました。アジア留学など格安留学の情報が增える一方、プログラムやサービスに高い質を求める保護者も多くなっており、留学スタイルも多様化が進んでいます。費用が両極化していた昨年の調査と比較すると、留学方法の広がりに合わせて留学にかかる費用も選択の幅が拡大する傾向がみられました。

■身のまわりの留学経験者から影響を受けた人は7割。教師による影響力が年々増加。

自身の留学を検討するにあたり、友人・家族などの身のまわりの留学経験者からの影響について尋ねたところ、中・高校生、大学生、社会人全ての属性において7割を占める結果となりました。また、2013年から年々、留学したことのある「先生」から影響を受けたとする人が増加しています。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は「留学白書 2016」の一部となります。『留学白書 2016』の詳細をご希望の方は、下記までお問い合わせ願います。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～

株式会社 留学ジャーナル 広報担当：石澤、久保

TEL：050-3033-4122 FAX：03-5312-4469

E-mail：pr@ryugaku.co.jp URL：http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」：https://www.facebook.com/RyugakuJournal

<参考資料>

■調査結果サマリー

①「留学ジャーナル利用者にみる傾向」データ編

【データの概要】

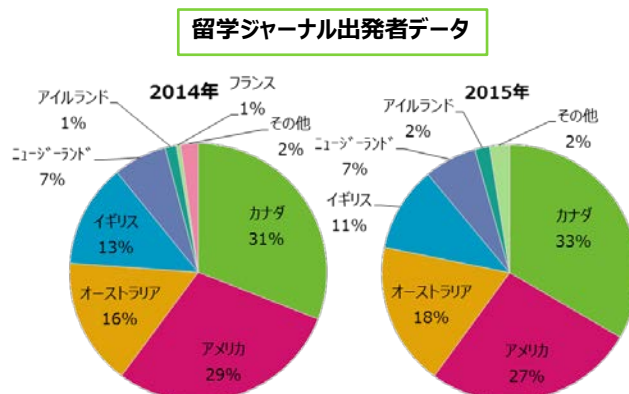
2015年1月1日～12月31日の期間に、全国5カ所（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方、ならびに留学ジャーナルを利用して渡航された方のデータ。

1-1. 「人気の留学先」について

■2015年留学先のトップはカナダ。

海外情勢の不安を避けてオセアニア留学も人気に。

2015年に留学ジャーナルを利用した留学先は、前年に変わらずカナダがトップとなった。2位はアメリカ、次にオーストラリアが続いた。アメリカは前年より7%減少、イギリスも15%減と出発者数が減った一方で、オーストラリアは16%アップと大きく増えた。



留学ジャーナルの考察：

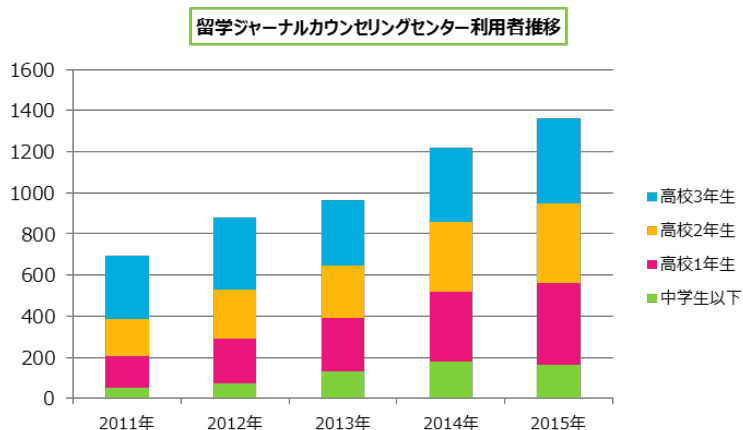
語学留学を目的とした相談者においても、希望トップはカナダ。大学進学層にはアメリカが圧倒的な人気を占めていますが、総じて治安がよく、安全性が世界トップレベルであるカナダへの留学人気は近年不動となっているようです。実際の留学では、テロ関連事件の多発など、昨今の海外情勢の不安を避けて、オセアニア留学の人気も上昇しています。

1-2. 「留学ジャーナル利用者数の推移<高校生以下>」について

■高校生以下の留学検討者が5年連続で増加。

2015年に留学ジャーナルカウンセリングセンターを訪れた高校生までの留学相談の件数は、2014年に対して約1割増加し、この5年間でほぼ2倍近い伸びとなっている。

高校生の相談は2015年も増加傾向が続き、各学年において15%ほどの前年比増だった。高校留学の相談件数としては高校1年での相談が最も多いが、十数年前に多く見られた逃避型留学は年々少なくなり、1学期～1年間の単位認定留学の希望者が増え、また卒業目的の留学希望者においても、留学後の進路を見据えた学校選びの相談が多くなった。

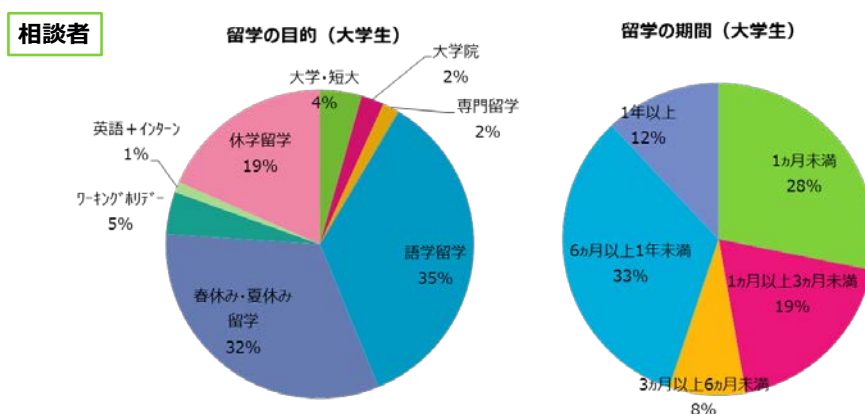


1-3. 「留学ジャーナル利用者数の推移＜大学生＞」について

■大学生は、在学中の休学・認定留学が主流に。

2015 年に当社留学カウンセリングセンターを利用して留学した大学生は前年に比べ 2%増えた。大学 4 年生に限ると 1 割以上減少。留学タイプ別にみると、短期語学留学が全体の 7 割のシェアを占め、次いで長期語学留学 3 割、ワーキングホリデー、専門留学、大学留学が同程度の割合になっている。

また、留学相談相談者の留学目的は、例年同様に語学留学が短期留学も含め 7 割を占める。休学留学と回答した 2 割の大学生は前年に比べ 4%の増加と、昨年の前年増加率 18%に比べると若干の増加に留まっている。しかし一方で、半年から 1 年という留学目的が増加率 12%と最も高かった。1 年以上の希望者になると、大学生は前年に対して 2%減少となっている。



留学ジャーナルの考察：

政府や自治体、さらに大学独自の留学支援も増え、国内全体では大学生の留学は相当の伸びがあると思われますが、まだまだ全体の底上げをするほどにはなっていないようです。

留学ジャーナルカウンセリングセンターにおける相談者の傾向に見えた、大学生の半年から 1 年という留学希望層は増加していて、1 年以上の長期間になると減少傾向が明らかになっているのは、国内の在籍大学において協定校などが増え、単位認定がされる留学が増えていることが要因と考えられます。

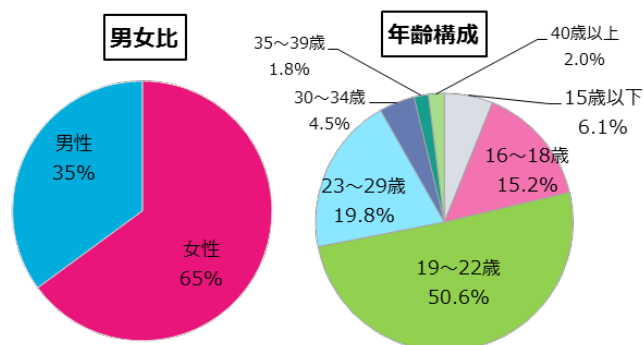
②「留学意識調査アンケート結果にみる傾向」データ編

【調査の概要】

調査対象：全国 5 カ所（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方への任意のアンケート結果

回答数：617 人

対象期間：2015 年 10 月 1 日～2016 年 1 月 31 日

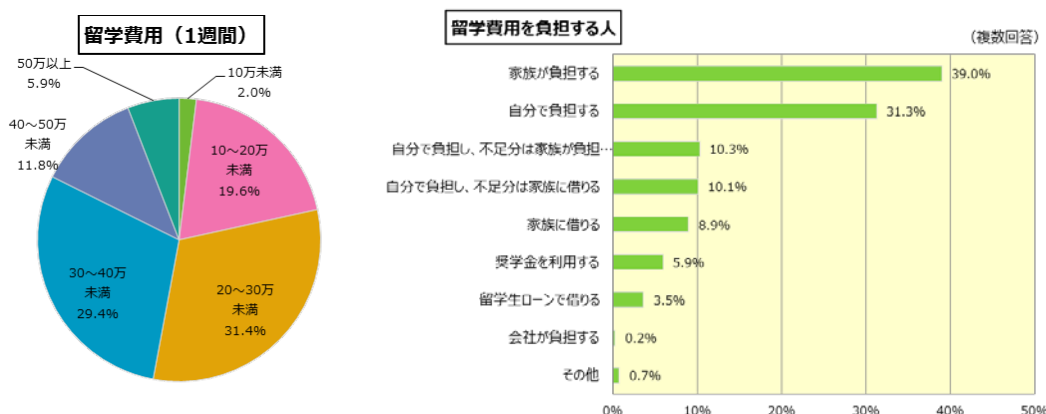


2-1. 「留学にかかる費用」について

■留学スタイルの多様化で、留学費用も選択の幅が拡大。費用を負担するのは「家族」が約4割。

昨年の調査では1週間にかかる費用について質問したところ、20万円未満が全体の4割、50万円以上が2割と両極化の傾向が見られたが、今回の調査では、20万円～30万円未満と回答した人が31%、30万円～40万円未満と回答した人が30%と中間的な金額も選ばれた。留学のスタイルが増え、1週間でも集中的に学ぶタイプからワーキングホリデーのように現地で働きながら費用を抑えた海外生活で英語力をつけるタイプまで、語学留学だけでも様々な選択ができるようになり、留学予算の幅も拡大した。

留学費用の負担については、「家族が負担」と回答した人が約4割、「自分で全額負担する」という回答が3割、「自分で負担し、不足分は家族が負担／家族に借りる」が2割近くを占める結果になった。



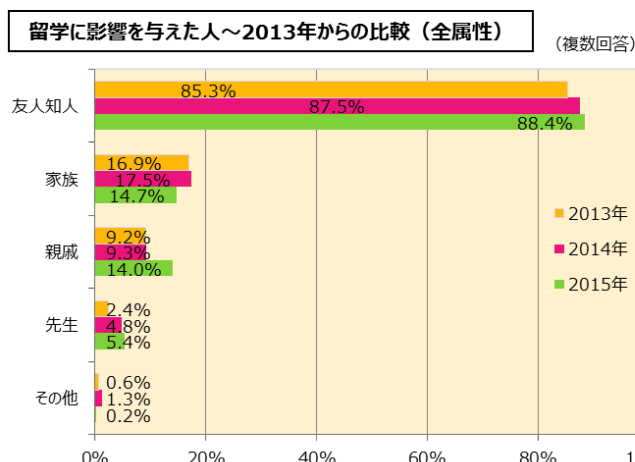
留学ジャーナルの考察：

アジア留学など格安留学の情報が増える一方で、留学先の治安や環境、提供されるプログラムやサービスに高い質を求める保護者も多くなっているため、ニーズも多様化傾向にあるようです。

2-2. 「友人・家族の留学の影響」について

■身のまわりの留学経験者が与える影響は7割。教師による影響力年々増加。

身のまわりの留学経験者に影響を受けているという回答者は中・高校生、大学生、社会人全ての属性において7割を占めている。対象・条件が異なるため、単純比較はできないが、影響を与えたのが「友人・知人」という回答が多数を占めているのは例年に変わらない。2013年から比較すると、「先生」からの影響が少しずつ増えている。



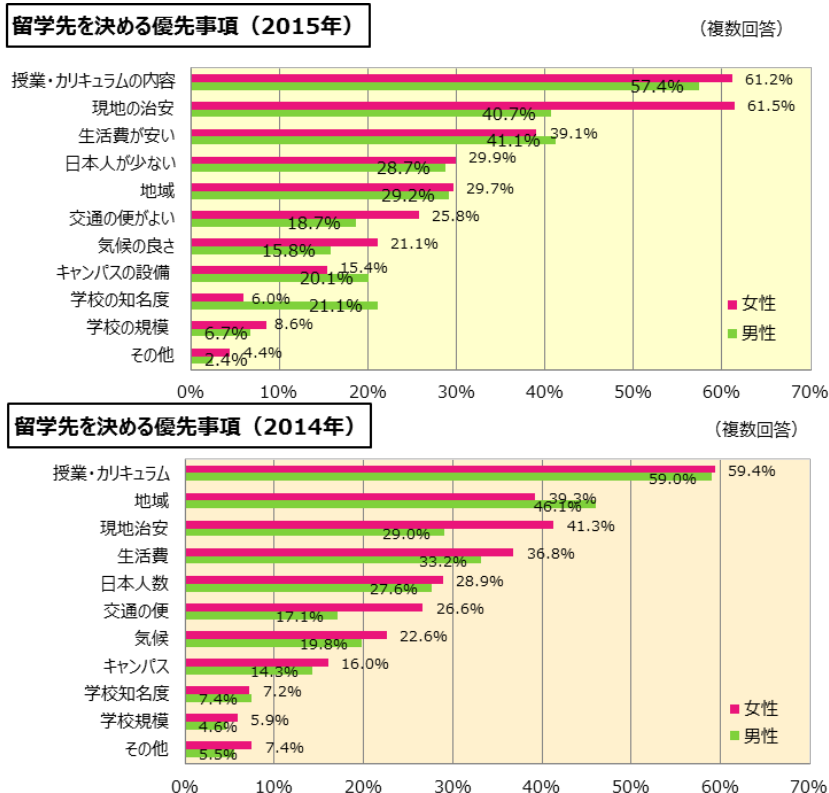
留学ジャーナルの考察：

文部科学省や自治体による留学支援が増えるにつれ、中・高校生や大学生のまわりにいる留学経験者も増えていきます。2013年から比較すると、「先生」からの影響が少しずつ増えているという点は、国をあげての外国語教育のさらなる推進によって、また各大学の留学支援が強化されることが、留学経験をもつ教師を増やすことに繋がっていると考えられます。それがさらに生徒にいい刺激、影響を与えていくことが期待されることです。

2-3. 「留学先を決める優先事項」について

■近年多発するテロ関連事件など、海外情勢の不安を気にする結果に。

留学先を決めるうえで優先事項は、例年「授業やカリキュラムの内容」がトップであったが、今回は男女で意見が割れる結果となった。男性は1位「授業やカリキュラムの内容」、2位「生活費が安い」、3位「現地の治安」が上位を占めた。女性では「現地の治安」がトップにあがった。



留学ジャーナルの考察：

2015年の調査時点で、イスラム過激派組織による事件や、各地でのテロ関連のニュースが際立ち、この影響が大きく響き、留学を考えるうえでの不安要素として「現地の治安」「留学先の環境」を気にする回答者の声が反映されているようです。中学・高校生女子、大学生女子でも、「現地の治安」がトップにあがる結果となっています。